

2022年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 アジア子ども基金

代表者・役職名 氏名 代表 西澤 砂弥香

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

防災・減災のための体験談に基づく紙芝居の制作と実演・配布

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

創設者は、在日タイ人のお母さんです。母国の恵まれない子どもたちのために、何かできることはないか?と考え、自分が子どもの頃、読みたくても、手が届かなかった絵本の図書館をタイ国、ランパン県に設立、子どもたちの未来につながる活動を行うことを目的に、国内外で活動を行っています。会員数 40人

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

子どもたちのほとんどは、3.11を知らないか記憶にない世代になりましたが、今年の3月に発生した震度5強の地震を始め、ここ最近とみに地震の回数が増えたと肌で感じています。そこで、子どもたちに対して、防災・減災について学ぶ機会を作るべきだと感じています。被災者の体験に基づく紙芝居にすることで、子どもたちの興味、関心を掻き立て、楽しく学べるようにしたいと思います。また、災害は全国どこで起きるか分かりません。作成した紙芝居は、その他の地域でも、防災や減災に取り組みにも役立ててもらいたいと思います。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当団体は、これまでも、被災者の方々との対話を重ねてきましたが紙芝居を作成するにあたって、被災者の皆さんの力を借り、当時どのような様子だったか、子どもたちに何を伝えたいか、聞き取り調査を行いました。被災者の皆さんの実体験と、阪神大震災後に設立された人と未来防災センター(神戸市)の資料を活用しながら、子供向けの紙芝居を作成しました。また、日頃から関わりのある石巻子ども未来図書館・塩釜市子ども食堂・女川つながる図書館の3か所で、親子参加の紙芝居の読み聞かせを行い、紙芝居の送付も行いました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

聞き取り調査・・・神戸2回・石巻2回・女川1回・塩竈1回 6回、のべ300人

紙芝居上演・・・神戸・石巻・女川・塩竈 各4回、のべ120人

紙芝居送付・・・30か所

密にならないように、少人数で回数を重ねて開催しました。

「当時は、子どもで、周りの大人の方に守ってもらいましたが、今は自分が守る立場にいます。

紙芝居を通じて、今ある命に感謝すると共に、次は自分の番だ、と改めて感じました」

「水を何リットル準備しましょう、食べ物は3日分用意しましょう、といった事はメディアでも取り上げますが、今回の紙芝居のような話は、一度も聞いたことがありませんでした。でも、これが一番大切な事なのだと感じました。」といった声をいただきました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

紙芝居は、一度作ると、ランニングコストをあまりかけずに、色々な所で上演できるのが魅力の一つだと思います。ぜひ、今後も継続して活動をしていきたいと思います。また、賛同者を増やして、紙芝居を増版・送付したいと思います。

今年作成したばかりですので、読み手の練習不足を感じることはありました。子ども達の集中を切らすことなく、上手にさばくには、少しコツがいります。

今後は、読み手の練習にも力を入れて、よりよい読み聞かせとなるようにしたいと思います。そして、ある程度スキルアップできたら、上演する地域を拡大したいと夢を膨らませています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

